

事業コード	H19-建-継-05		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地方道路交付金事業費		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	道路改築事業(バイパス)		班 名	道路建設班 (tel) 018-860-2493
路線名等	(一) 根瀬尾去沢線		担当課長名	加藤 修平
箇所名	鹿角市 長内		担当者名	伊藤 茂
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	04	施策名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備
	指標コード	02	施策目標(指標)名	県道改良率

1. 事業の概要

事業期間	H14 ~ H21 (8 年)		総事業費	12.5億円	国庫補助率	5.5 / 10	
事業規模	延長 L = 860m、幅員 W = 6.0 (11.0) m						
事業の立案に至る背景	<p>一般県道根瀬尾去沢線は、鹿角市の長内、根瀬地区と鹿角市市街地を連絡する生活幹線道路であるが、国道282号と国道341号を補完し、米代川左岸側の南北を結ぶ幹線道路として機能している。また周辺にはマインランド尾去沢や八幡平国立公園があるため、観光道路としても機能している。当該区間は狭隘で急勾配の箇所が存在するため、大型車のすれ違いが困難な状況にあり、冬季交通の安全性も確保されていない。また通学路でありながら十分な歩道も設置されていないため、交通安全上大きな問題を有している。</p> <p>そのため、生活道路として円滑で安全な交通を確保するため道路整備を行うものである。</p>						
事業目的	大型車のすれ違い困難箇所の解消(地域作りの支援)			車道幅員5.0m			
	通学路における歩道未整備箇所の解消(安全な生活環境の確保)			歩道なし			
	冬季未改良期間の解消(道路の防災対策・危機管理の充実)			路肩0.5m			
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	1,250,000	1,250,000	0			
	経費内訳	工事費	734,700	734,700	0		
		用補費	380,126	380,126	0		
		その他	135,174	135,174	0		
	財源内訳	国庫補助	684,500	684,500	0		
		県 債	534,000	534,000	0		
その他		0	0	0			
一般財源		31,500	31,500	0			
事業内容	調査・設計 用地買収補償 改良工、橋梁 工、舗装工	調査・設計 用地買収補償 改良工、橋梁 工、舗装工					
事業の進捗状況	用地買収が完了し、事業の進捗も平成19年度末で8割を超える見込みである。						
事業推進上の課題	特になし						
関連する計画等	あきた21総合計画における「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」を支援する事業						
情勢の変化及び長期継続の理由	特になし						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	県道改良率					
	指標式	改良率					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	68.8 %		データ等の出典	道路現況調査		
	実績値 b	69.5 %					
達成率 b/a	101.0 %		把握の時期	平成19年 8 月			

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	通学路及びバス路線として指定された路線であり、他に競合する路線は存在しない。 また代替手段もなく、事業は妥当である。 道路構造が最急縦断勾配8.8%、最小曲線半径30mとなっており、安全な交通確保のため早急に整備する必要がある。	13点
緊 急 性	通学路であるにもかかわらず、幅員狭小で歩道もなく、通学児童が常に危険にさらされているなど、生活道路として機能を果たしていないため、当該区間を早急に整備する必要がある。	12点
有 効 性	安全な生活環境の確保 歩道無し 2.5m 地域づくりの支援 車道5m 6.0m 道路の防災対策・危機管理の充実 路肩0.5m 1.25m	23点
効 率 性	事業の費用便益比は1.12であり、効率性は高い。	19点
熟 度	用地買収が完了しており、事業の進捗も平成19年度末に約8割となる見込みのため、事業推進の熟度は高い。	20点
判 定	ランク () 「効率性」が特に高い点数となっており、「緊急性」についても生活道路として安全な生活環境の確保の必要があるので、引き続き実施すべきである。	87点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価

事業コード(H19-建-継-05)

適用基準名 道路改築事業(地域内・生活圏交通促進)

箇所名 (鹿角市 長内)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数				
	・車道幅員 < 5.5 m	3箇所以上	8	8	
	・最小半径 < 100 m	2箇所	6		
	・最急勾配 > 5 %	1箇所	4		
	・冬期堆雪巾なし	0箇所以上	0		
	計		15		
	道路環境上の欠陥該当項目				
	・現道の混雑度 1.0	5件該当	7	5	
	・現道の旅行速度 30km/h	4件該当	6		
・現道の事故率 50件	3件該当	5			
・通学路指定で歩道なし	2件該当	4			
・重大交通事故が発生	1件該当	2			
計	該当項目なし	0			
緊急性	道路をとりまく環境等				
関連事業の有無					
・県の主要プロジェクト	あり	4	4		
・地域振興プロジェクト					
・ほ場整備等の他事業	なし	0			
市町村合併支援道路	位置づけあり	3	0		
	位置づけなし	0			
交通量	増加している	3	3		
	増加していない	0			
特有の課題の有無	あり	5	5		
老朽橋、災害危険箇所、冬期通行不能区間等	なし	0			
計		15	12		
有効性	道路の位置づけ				
	生活圏30分形成道路等	該当する	7	0	
		該当しない	0		
	救急医療施設へのアクセス道路	該当する	7	7	
		該当しない	0		
	地域防災計画に重要な道路	該当する	7	7	
	該当しない	0			
社会変化による事業の必要性	必要性が高い	9	9		
	低下傾向	6			
	必要性が低い	3			
計		30	23		
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比(B/C)				
	1.0以上	5	5		
	0.5以上~1.0未満	3			
	0.5未満	0			
	計画交通量				
	1,000台/日以上	5	5		
500台/日以上~1,000台日/未満	4				
300台/日以上~500台日/未満	3				
300台/日未満	0				
コスト縮減	あり	5	5		
	なし	0			
事業中止による影響	既投資額の損失大	5	4	e t c 大規模バイパス e t c 部分的ミニバイパ e t c 現道拡幅	
	既投資額の部分的損失	4			
	既投資額の損失が少ない	3			
計		20	19		
熟度	事業の進捗進捗状況				
	事業の進捗(事業費)				
	8割以上完了	10	10		
	5割以上完了	8			
	1割以上完了	5			
	1割未満	2			
用地買収の進捗(面積)					
8割以上完了	10	10			
5割以上完了	8				
1割以上完了	5				
1割未満	2				
未着手	0				
計		20	20		
合計			100	87	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		